

## ～中国の大学入試～

下関市総合政策部国際課  
(青島市派遣職員)  
木下 清治

中国の教育制度は、日本と同様、就学前教育、初等教育、中等教育、高等教育から構成されています。義務教育も日本と同様、小学校と初級中学です。義務教育の後、高級中学に進みます。高級中学の頃は、大学入試のため、本当に勉強しかしないそうです。朝起きたらすぐに勉強を始め、夕方学校が終わった後は教室に残り、夜10時まで勉強、というような生活を毎日送るのだそうです。体育の授業もあるにはあるそうなのですが、グラウンドを2～3周走る程度で部活はありません。みんな、いい大学に入って、いいところに就職するため、勉強以外の時間をなるべく削ぎ落とした生活を送ります。

<日中の学制比較表>

|       | 中国      | 日本      |
|-------|---------|---------|
| 就学前教育 | 託児所・幼稚園 | 保育園・幼稚園 |
| 初等教育  | 小学校     | 小学校     |
| 中等教育  | 初級中学    | 中学      |
|       | 高級中学    | 高校      |
| 高等教育  | 大学      | 大学      |

そして、大学入試を迎えます。大学入試は、「全国大学統一入試」と言います。日本の「センター試験」と同じような仕組みですが、日本と違うところは、大学入試は、この「全国大学統一入試」だけで行い、日本のように「センター試験」後の大学の「個別入試」はありません。また、解答方法はマークシート方式だけでなく記述式も含まれます。入試科目は、英語・数学・国語は必須で、あとは自分が希望する学部に合わせて必要な科目を受験します。

山東省の場合、「全国大学統一入試」は、毎年6月7～8日にあります。そのため、学生たちは6月のことを「黒い月」と呼んでいるそうです。一年に一度しかないチャンス、そこに人生の全てがかかっているといっても過言ではありません。そのプレッシャーを考えると「黒い月」と呼びたくなる気持ちもわかります。

「全国大学統一入試」の結果は、6月下旬に本人の手元に届きます。その結果をもとに大学に願書を提出するのですが、その時に重要になるのが、自分の希望する大学に合格した先輩達の「点数」です。

大学は、各大学各学部ごとに定員があり、出願者のうち点数の上位の者から選抜していきます。なので、過去に合格した先輩達の点数をネット等で調べ、「自分の点数」と「過去の点数」を比べ、入学できそうな大学に願書を送ります。願書を出せる大学は第一希望から第三希望までの3つまで。従って、「運」が試されます。

ここで非常に不公平だと思うのが「省の壁」です。実は、各大学の定員は省ごとに決まっており、省ごとに合格者が決まるのです。ですから、「山東省の学生が、もし、北京出身だったら受かっていた！」ということが起きるのです。



青島大学正門